

令和7年

年頭所感

札幌商工会議所
会頭 岩田 圭剛



ます。

一昨年に発足した産学官金から構成されるGX（グリーントランسفォーメーション）推進コンソーシアム「Team Sapporo-O-Hokkaido（チーム札幌・北海道）」により、札幌が「アジア・世界の金融センター」になるべく、取り組みが進んでいます。

また、Rapidus社の工場稼働を見据え、道内には半導体、データセンター関連の投資が増加し、ホテルや住宅用マンションの建設も活況を呈しています。

これまでの「食と観光」という

北海道の柱に加え、今後はGXや半導体産業といった製造業が経済発展の起爆剤となっていくでしょう。

私どもは、今年も「REBOR

N！札幌～札幌の元気で北海道経済を牽引する！」のスローガンに基づき、北海道、札幌の地域経済活性化を目指して力強く事業を進めています。

さらに、今年は4月から「2025年大阪・関西万博」が半年間

にわたって開催されます。期間中

は国内外から観光客や関係者が訪れることが見込まれています。国

内経済が活性化し、地域産業にも活力が生まれることを期待いたし

いで参ります。

また、インバウンドが回復したことによる飲食店やエンターテインメント、夜景などの夜間観光コンテンツを整備することで、一層の観光振興に取り組んで参ります。

あらゆる業界が人材確保に深刻な課題を抱える中、急速に進化を続ける生成AIを活用するなど、中小企業のデジタル化支援を行う

ことが急務であると感じています。外国人材も含めた人材確保を支援するため、大学、高校等と連携し、業界や企業の発信力の強化を目指して参ります。

このほか、経営者の高齢化と後継者不足による廃業の増加に対し、各行政機関や金融機関と連携の上、北海道事業承継・引継ぎ支援センターとして、全道の42の商工会議所をネットワークで結ぶことで、経営者の相談に対応いたします。

札幌商工会議所の使命は、地域経済を支える中小企業を支援し、

その振興を通じて地域社会の発展に貢献することです。札幌の元気で北海道経済を牽引することを目指し、今年も全力で取り組んで参ります。

已年を迎えた新たな幕開けを感じる中、世界を見渡しますと、揺れ動く中東の情勢、中国経済の先行き不安、異常気象による災害の増加など、懸念事項は山積しています。こうした中、米国大統領選挙が決着し、新たな体制の下での日米関係が始まろうとしています。

国内では、円安の進行や燃料、原材料価格の高騰に、人件費の増加などが加わり、多くの中小企業にとって厳しい経営環境が続いています。

明けましておめでとうございます。
謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

一方、昨年日本国内を訪れた外国人観光客は、新型コロナウイルス拡大前の2019年の記録を上回る見通しです。円安が追い風となり、宿泊や飲食などの観光消費額も伸びています。

さらに、今年は4月から「2025年大阪・関西万博」が半年間

にわたって開催されます。期間中は国内外から観光客や関係者が訪れることが見込まれています。国

内経済が活性化し、地域産業にも活力が生まれることを期待いたし